



院長 藤本 勝洋 (ふじもと かつた)

1992年 福岡大学医学部医学科卒業後、同大学病院第2内科勤務。94年より名古屋市立大学大学院医学研究科にて免疫学の研究に従事。99年より福岡大学病院第4内科勤務。2005年より民間医療機関にて化学療法、免疫療法担当。2008年より福岡大学医学部非常勤講師。2012年ふじ養生クリニック福岡開設。現在 ふじ養生クリニック福岡院長。福岡大学医学部非常勤講師。

すべての患者に治療法は必ずある
「一般的に定まった治療をやり尽くすと、もう治療方法はないと言われてしまいます。生きたいという希望のある方は、がんに対してあきらめる必要はないということ。患者様に提供できる大切な理念です」
ふじ養生クリニック福岡には、全国からさまざまな病状、病態のがん患者が訪れる。そのほとんどは「治療法がない」とがんと戦いをあきらめかけていた患者たちである。藤本院長は、どんな患者にもその人、そのときに適した治療法があると言う。

「たとえば、現在の医療レベルで『必ず治します』と言ったらこれはほとんど嘘に繋がります。また、世の中には少ないながらも治ってしまう人もいますので、治りませんと言いつけるのも嘘なのです。ここに希望が生まれるのです。そして『もう治療法がありません』というのでもまた嘘だと思つては、患者様が生きることあきらめてはいけません。医者があきらめるのは身勝手ですよ」
穏やかな口調で語る藤本院長だが、同院で行われる「あきらめない治療」は、感情的なものでも情緒的なものでもない。

免疫力を活かし、化学療法の効果を最大限に引き出す

薬理に基づいた「あきらめない」がん治療

統計では日本人の2人に1人がかかるがん。誰にとつても身近な病気であるがんは、いまだに患者の命にかかわる疾患である場合が多い。その治療は、技術の進歩、新薬の開発などによって飛躍的な改善を見せている。がんの3年生存率、5年生存率の向上に貢献するがん治療の現場から、化学療法を中心に治療実績を上げているふじ養生クリニック福岡の藤本勝洋院長に話を聞いた。

の相互作用、薬理が働いて、治療効果を上げることができるんです」
薬理学に基づき、薬の相互作用、体の中でどのように影響し合うのかを考へて投与することができれば、がん細胞の住みにくい環境を作り出しつつ、成長を妨げながら攻撃するという攻防一体のがん治療も可能になる。

低用量で効果のある副作用の少ないがん治療

「さらに言えば、薬理に基づいて治療できれば、それぞれの薬の量は驚くほど少なくすみます。この方法の何がいかと言えば、効果を上げながら患者様の副作用を大幅に抑えることができる。これに尽きます」
がん治療を「あきらめる」理由には、抗がん剤の強い副作用を挙げる人も少なくない。薬の効果、機序を十分に調べた上で用量を調整していけば、副作用がほとんどない状態での治療も可能だという。副作用が少なければ、がんによって弱っていることの多い患者の体力を考慮しつつ、より積極的な治療が行える。

「薬理」に基づいた「医学的根拠のある治療」

化学療法に精通した藤本院長が提供する「薬理」に基づきその可能性を追求した医学的に根拠のある治療法だ。「注目されている分子標的薬をはじめ、抗がん剤の進歩は目覚ましいですが、薬の効き目を引き出すために、一人一人に免疫を活性化させる免疫賦活剤や、血管新生阻害剤などを併用することで、薬と生体

「あきらめない」のは患者のためでできることがあるから。明確な治療指針を示す藤本院長に信頼を寄せる患者は

地域にかかわらず福岡にやってくる。「言われてシヨックなのは患者さんやご家族からの『もっと早く出会いたかった』という言葉です」

同院では、患者への治療の説明には1時間、2時間と納得のいく時間を掛け、ときに数時間に及ぶことも通常だ。最後の望みをかけて来院する患者の安堵の表情と出会うタイミングは少しでも早い方がいい。

ふじ養生クリニック福岡は、今日もがん患者に生きる希望を与え続けている。



ふじ養生クリニック福岡

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前
3-7-34
第2博多クリエイトビル3階
博多駅より徒歩7分
TEL 092-409-1345
【予約受付】
月、火、木、金、土曜日
10:00～18:00

